住給ふ延喜の御事、ツレ松とは盡ぬことの葉の、シテ榮えは古今相おなじと、二人御代をあがむるたとへ也、ワキよく〳〵きけば有難や、今こそ不審はるの日の、シテ光りやわらぐにしの海の、ワキかしこは住の江、シテ爰は高砂、ワキ松もいろそひ、シテ春もワキ長閑に上歌同四海浪靜にて、國も治まる時津風、枝をならさぬ御代なれや、あひに相生の、松こそめでたかりけれ、實やあふぎても、ことも、おろかやかゝるよに、すめる民とて豐かなる、君の惠みぞ有難き、〳〵、

○下略

〔紀伊續風土記物產六上〕根騰松

海部郡雜賀莊關戸村高松茶屋の北、古松數百松原をなし、松の根皆高く揚り、蟠龍屈蛇の狀をなせり、高きものは一丈餘、卑き者は五六尺に下らず、土人呼びて高松の根騰松といふ、一の奇觀なり、江南通志に載せたる黃山松の類なり、

〔書言字考節用集六生植〕三鈷松在紀州高野山

〔長崎紀行二〕十八日○明和三年十一月室を出て二里正條にて馬をつぎ、姫路に到り晝食す、此とき五六輩高砂廻りを約す、大道を二里計行て左へわかれ、曾根天神へ參詣す、祠前に偃松有、無類の名木也、菅公手づから植給ふとぞ、

題曾根偃松

聞道菅公遺愛松、盤根偃蓋鬱重々、高風何借大夫爵、長帶祥雲似臥龍、

偃松圖○圖略　今計太周一丈八尺、梢二丈三尺、枝自坤至艮二十間餘、自乾至巽十間餘、其間鬱茂如偃蓋、每枝以木支之百五十八木、天正以前枝葉甚盛、天正中祠宮罹兵火、此時西南枝燒枯、

〔古今要覽稿草木〕根あがり松

根あがり松は豐後國國埼郡田深浦、田邊文三說豐前國企救郡內裏浦、及び紀伊國和歌浦紀伊國名所圖會等